

# アジアの若者と「未来を共有」しよう！

田辺孝二 WAA(アジア人の会)代表世話人



田辺アドレス  
kj.tanabe@gmail.com

シンガポール国立大学のスタートアップ支援施設

# お伝えしたいこと

1. **なぜWAA(アジア人の会)を主宰しているのか？**
  - ・アジア人:アジアの視野&アジアを舞台に行動
  - ・日本人:日本の視野&日本を舞台に行動
2. **なぜ18年間早大で「シンガポール・アジアのIT」の講義をしているのか？**
  - ・日本から学び、日本を超えたシンガポール
  - ・社会的課題を解決するIT
3. **なぜアジアの若者と「未来を共有」すべきなのか？**
  - ・ダイナミックに発展するアジア、共に発展できる日本
  - ・「過去の共有」よりも「未来の共有」で行動しよう！
4. **アジア研修「イノベーション」への挑戦**

# 自己紹介

1952年香川県生まれ 1970年 京都大学入学 75年理学部(数学)卒

2003年 東工大 博士課程修了 博士(学術)

- 東京工業大学 名誉教授(2017~)
- 早稲田大学「シンガポールのITとイノベーション」、  
「アジアのITと社会革新」講師(非常勤)(2001~)  
研修ツアー(シンガポール、上海、ベトナム、台湾、韓国)
- WAA(We Are Asian, アジア人の会)代表世話人(1996~)
- 経済産業省(通産省) 1975~2003  
シンガポール勤務(1991~94)、中国経産局長、調査統計部長
- 島根県民ファンド 創設者・代表 2004~2014
- 東工大技術経営(MOT)専門職大学院教授 2005~2017

# ホーチミン現地研修(2018年3月)



# 上海·蘇州現地研修(2018年3月、WAAと合同)



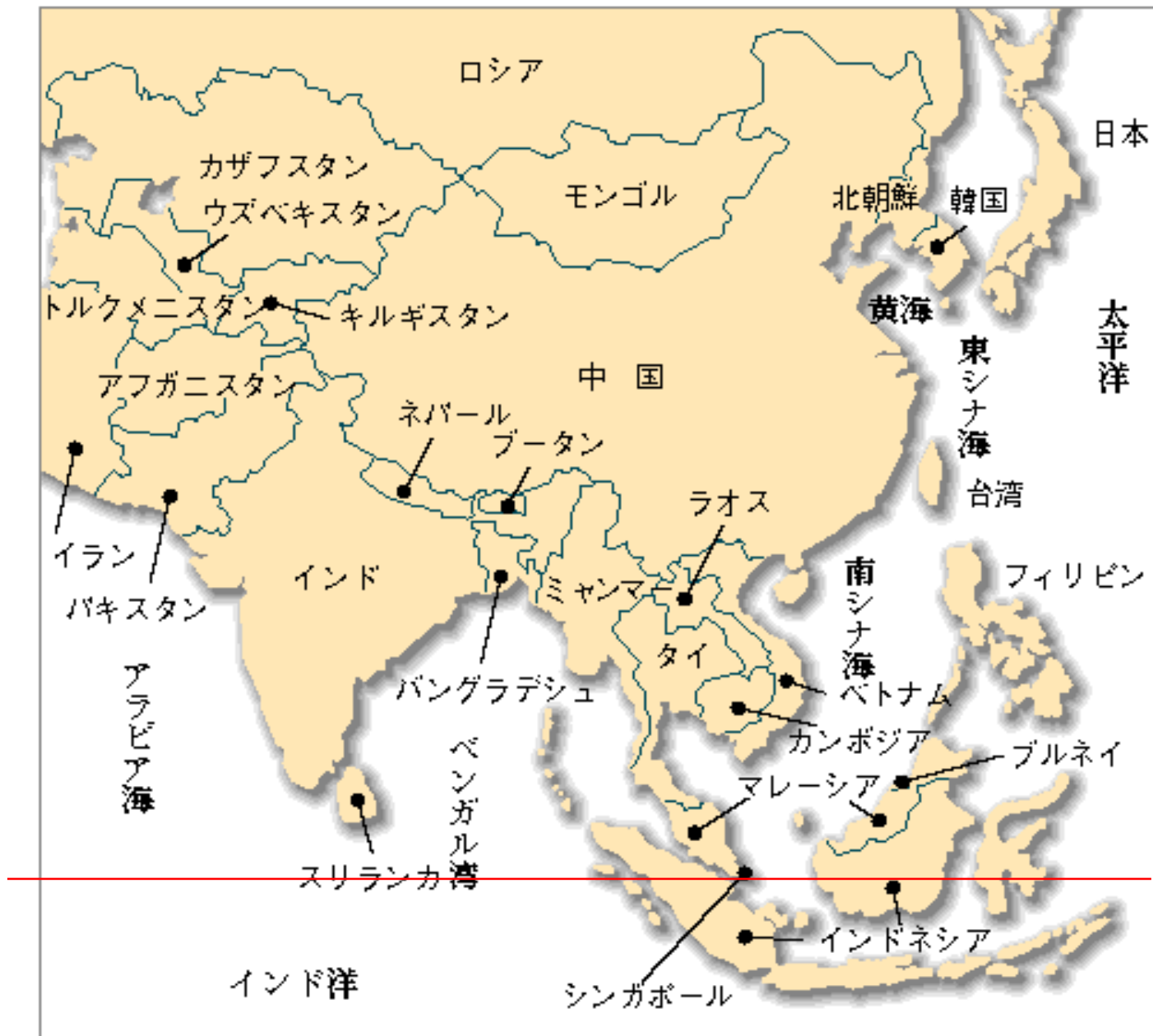
# シンガポール現地研修(2018年9月) シンガポール国立大学日本語プログラムとの共同活動



# なぜWAAを主宰しているのか？

- 2つのきっかけ(1995年頃)
  - ・東南アジアに駐在した日本人が二度と現地に行かない
  - ・「韓国からの留学生が日本を嫌いになって帰国している」
- 東南アジア駐在で感じたこと
  - ・国境を超えてビジネス・交流しているアジアの人たち
  - ・日本はアジアと「人と人」の交流が少なく、孤立化する恐れ
- **WAA(We Are Asian)**スタート 1996年4月  
アジア人:アジアの視野で考え、アジアを舞台に行動する人  
毎月第3金曜に、アジアをテーマに講演会・交流会  
目的:日本人がアジア人になるための場  
留学生が日本人と友達になる場

# アジアと日本





# なぜ18年間早大で「シンガポール・アジアのIT」 講義をしているのか？

- 2001年に「シンガポールのIT革命」を開講  
早大からの依頼、パナソニックの寄付講義(2001~17)。  
夏休みに現地研修(1週間)。後期は「アジアのIT」(2008~)。
- 目的 IT利用の本質を学び、日本を考える  
日本:技術力はあるが、活用しない社会・政府(世界27位)  
シンガポール:日本から学び、日本を超える(世界1位)  
事例① 貿易申請処理システム(TradeNet)  
24時間申請可能、数分で審査完了  
② 電子道路料金徴収システム(ERP)  
混雑に応じ時間帯・道路ごとに異なる料金  
アジア:社会的課題の解決のためにITを活用

# デジタル競争力ランキング(アジア)

IMD World Digital Competitiveness Yearbook 2017

1位	シンガポール	
7位	香港	<b>日本の問題</b>
12位	台湾	・ITを社会問題解決に使っていない
19位	韓国	・IT人材・経営人材を育成していない
24位	マレーシア	・未来づくりに真剣に取り組んでいない
27位	日本	
31位	中国	
51位	インド	

# シンガポール：日本から学び日本を超える

「パートナー意識」、「多様性の尊重」、「人を育てる」

- 日本シンガポールAIセンター開所式の財務大臣挨拶

Dr. Ho財務大臣(1992年)

“このプロジェクトは単なる技術移転プロジェクトではない。  
シンガポール人専門家と日本人専門家が共に働くことにより、  
日本人の考え方や仕事のやり方を学ぶことができる。  
それがシンガポールの未来の発展に重要である。日本にとっ  
てもVice Versaであろう。”

## Japan-Singapore AI Centre 1991~95

日本のシンガポールに対する最後のODA事業

AI(知識ベースでコンピュータが判断)の専門家育成

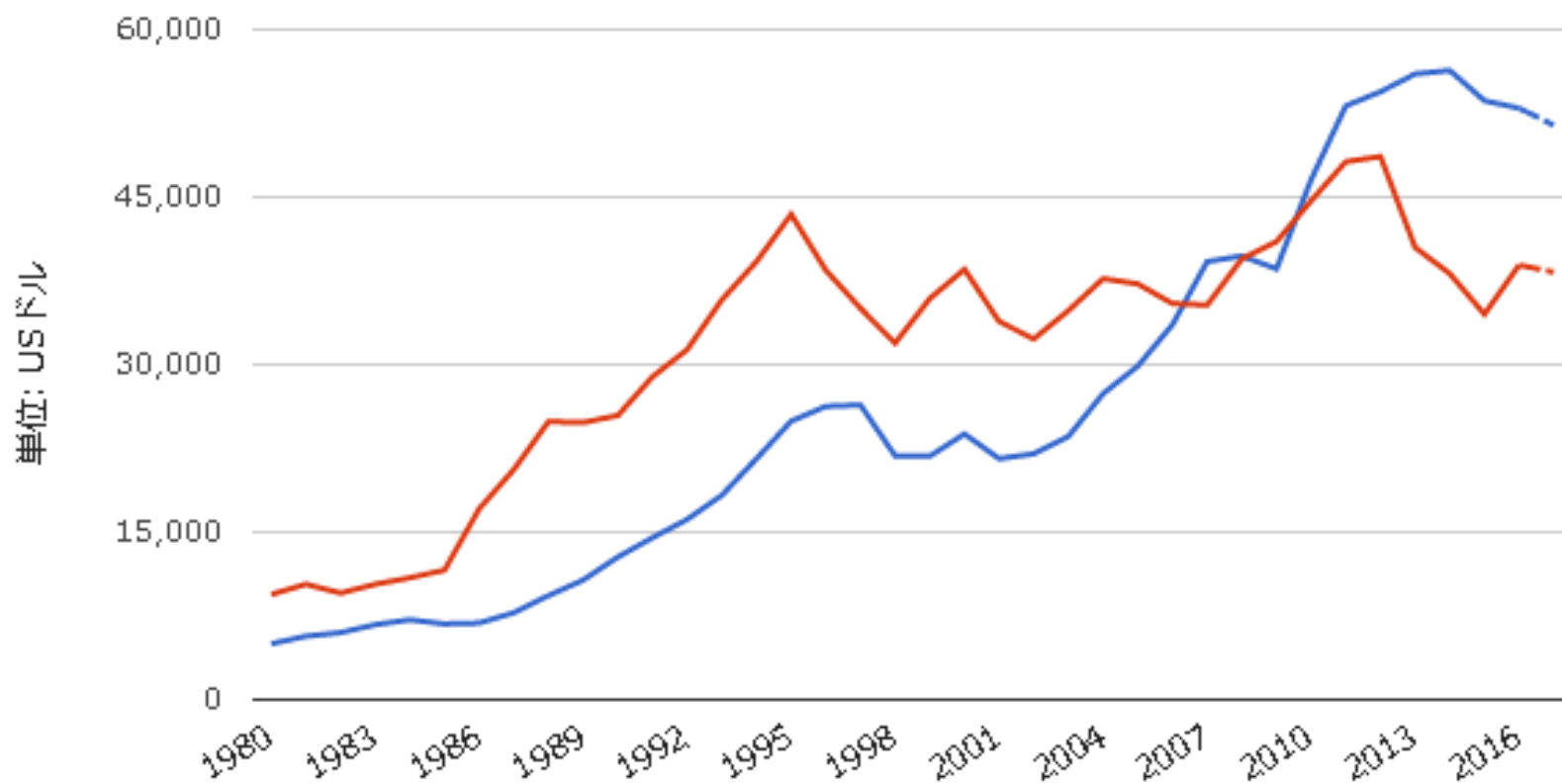
日本人専門家7名がシンガポール人専門家に協力

自動審査・自動承認の政府システムを開発・運営

# 日本より豊かなシンガポール

一人当たりの名目GDP(USドル)の推移(1980~2017年)

— シンガポール — 日本



# TradeNet: 快適なビジネス環境

革新性: オンライン手続・自動審査による効率化・迅速化

## 貿易申請処理システム (1989年開始)

- ・ オンラインによる手続
- ・ いつでも申請できる電子政府システム
- ・ 3～35の政府機関に1つの申請 (ワンストップ)
- ・ 数分で処理終了 約98%の案件が自動審査処理

人が介在しない電子申請、自動審査、自動承認

## ビジネスのじゃまをしない政府

24時間openの空港・港と連携しビジネスを支援  
人件費、倉庫代などのコスト削減  
スピードによる競争力向上

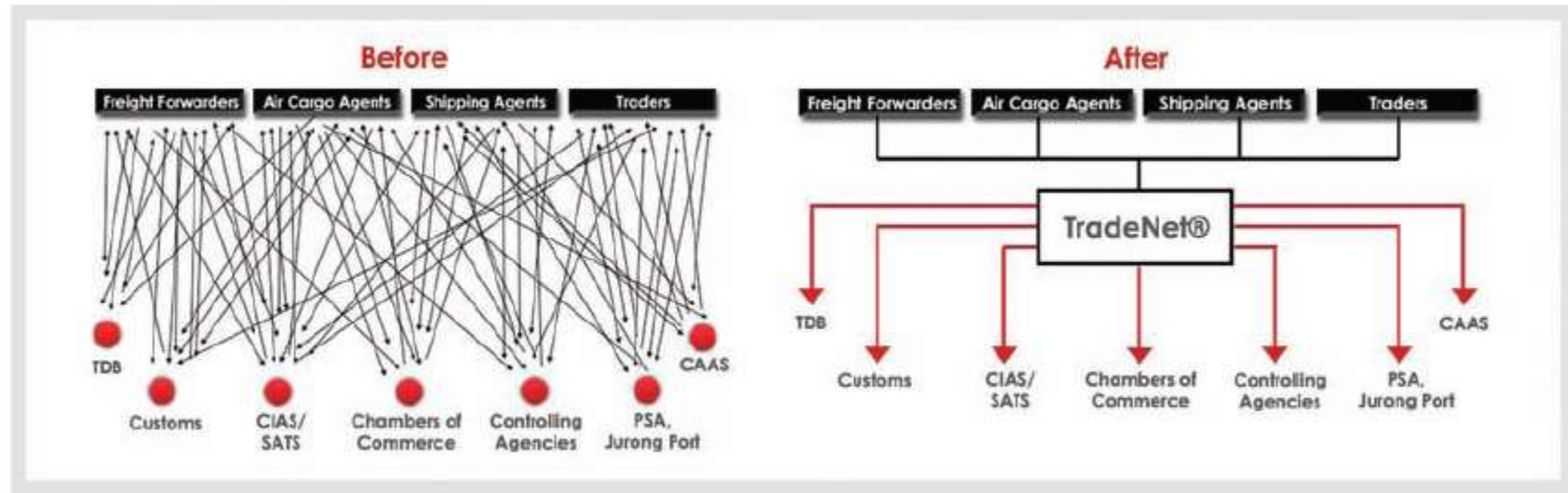


Figure 1: World's first nationwide trade clearance system integrates 35 controlling units' requirements

	BEFORE TRADENET®	AFTER TRADENET®
Processing time/permit	2 – 7 days	1 min or less
Fees charged	\$\$10 – \$\$20	Less than \$5
Number of documents	3 – 35 docs	1 eForm/eDoc
Documents processed per day	approx. 10,000	more than 30,000

Figure 2: Before and After TradeNet®

# ERP: 快適な生活・ビジネス環境

革新性: 自動化・全車化により、混雑に応じた通行料設定で交通制御

- 電子道路料金徴収システム (Electronic Road Pricing)

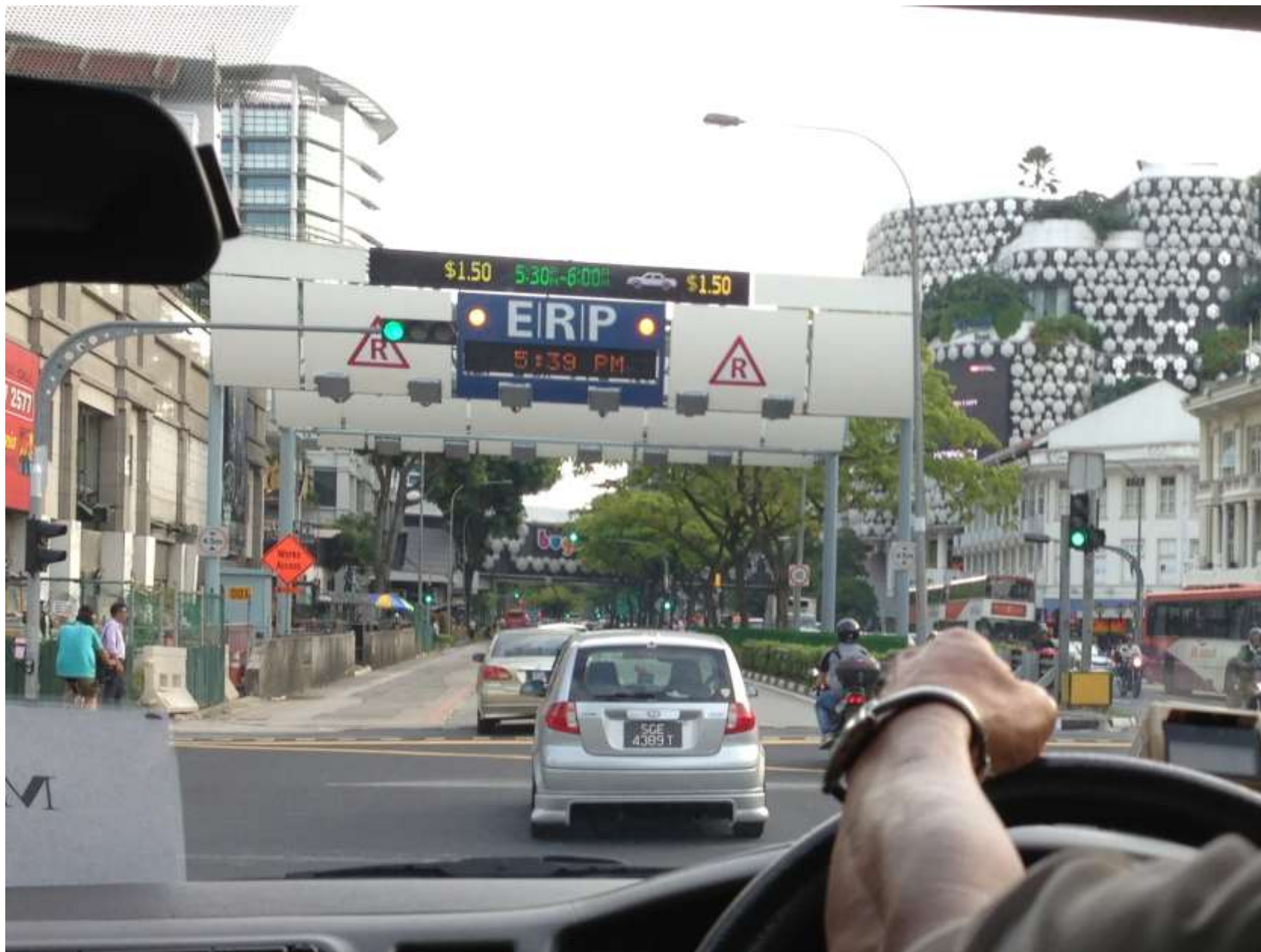
1998年に導入。開発は三菱重工グループ。

目的: 市街地の交通渋滞が起きないように、市街地に入る車から通行料を徴収する電子課金制度。

ERP以前は、クーポン(3ドル)購入、人による監視。

- 特徴
- ・ 汎用のICカード(プリペイドカード)を利用する。
  - ・ 全車にERP対応車載器装着が義務化されている。導入当初はすべての車に車載器を無料で配布。
  - ・ 日本のETCと異なり、道全体にゲートがあり、スピードを落とす必要がない。
  - ・ 交通混雑に応じて、時間帯・ゲート毎に通行料が異なる(混雑時は高い通行料を徴収)。
- 実績で、3ヶ月毎に通行料を見直している。

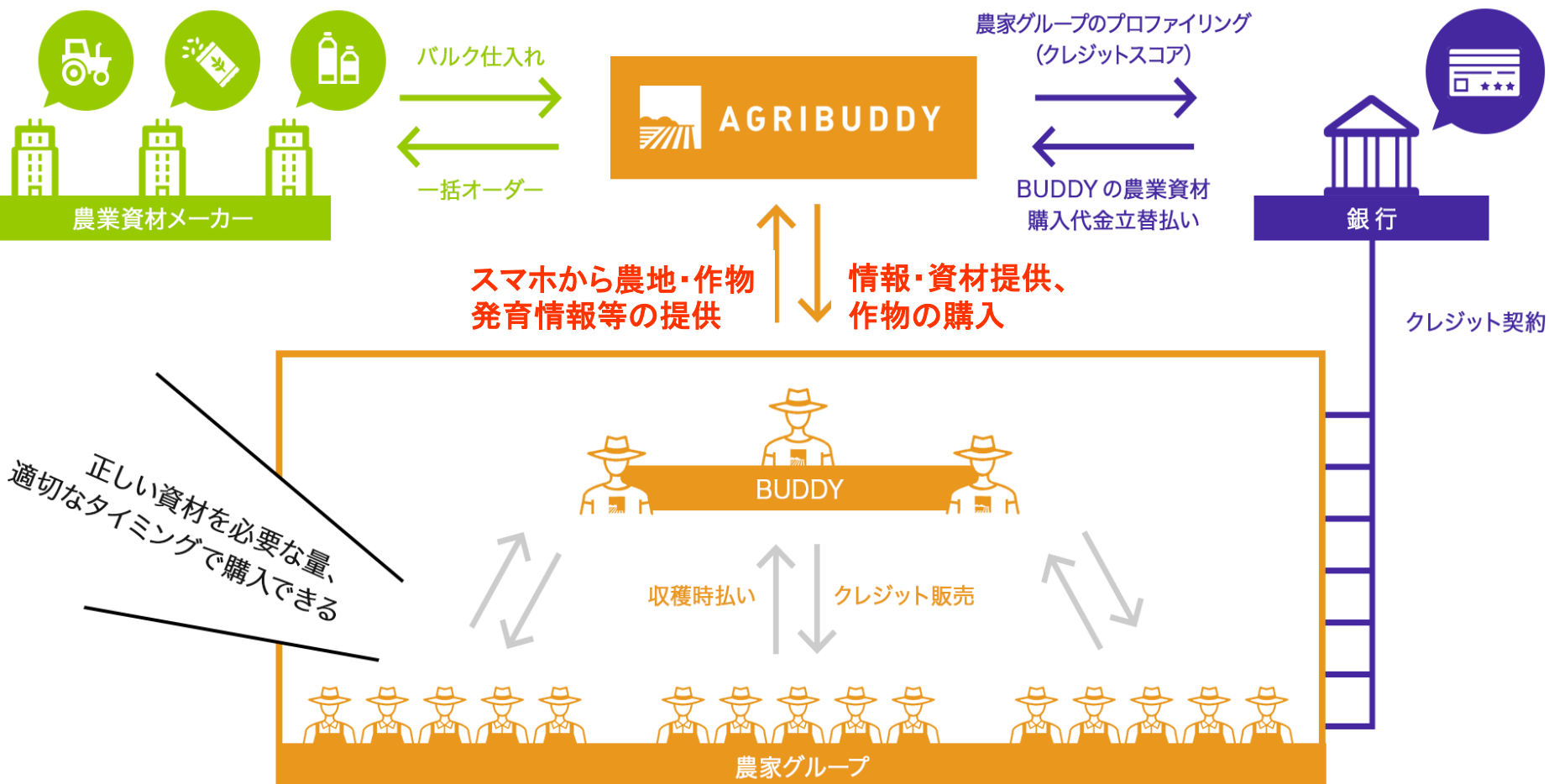
# 電子道路料金徴収システム(シンガポール)





# AGRIBUDDYのビジネスモデル

まじめに取り組む農民に選択肢・機会を提供

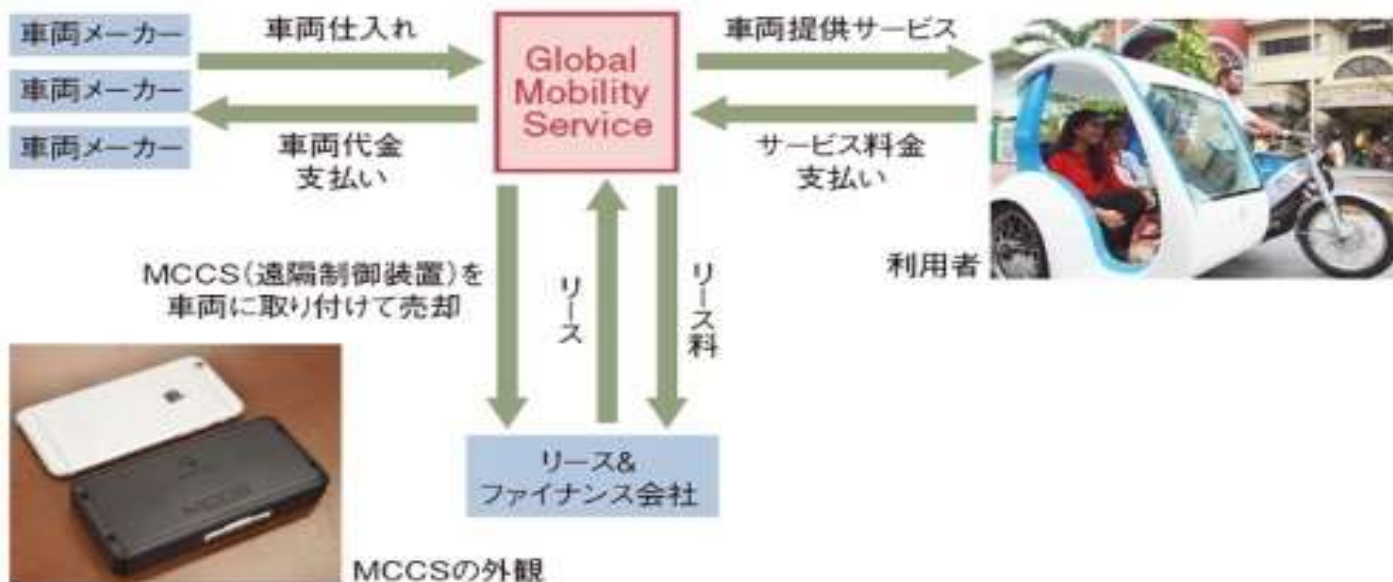
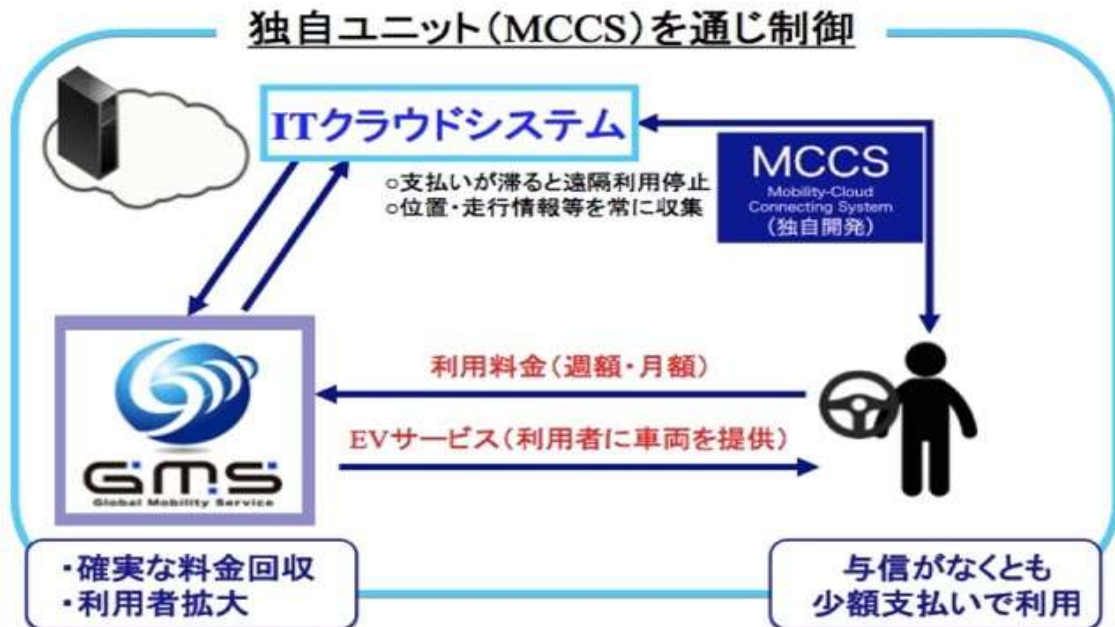


# Global Mobility Service

# IoT × モビリティ × Fintechの融合

与信審査に通過しない  
貧困層が車を利用できる

(フィリピン等)  
貧困層がタクシー事業に  
取り組める仕組みを提供



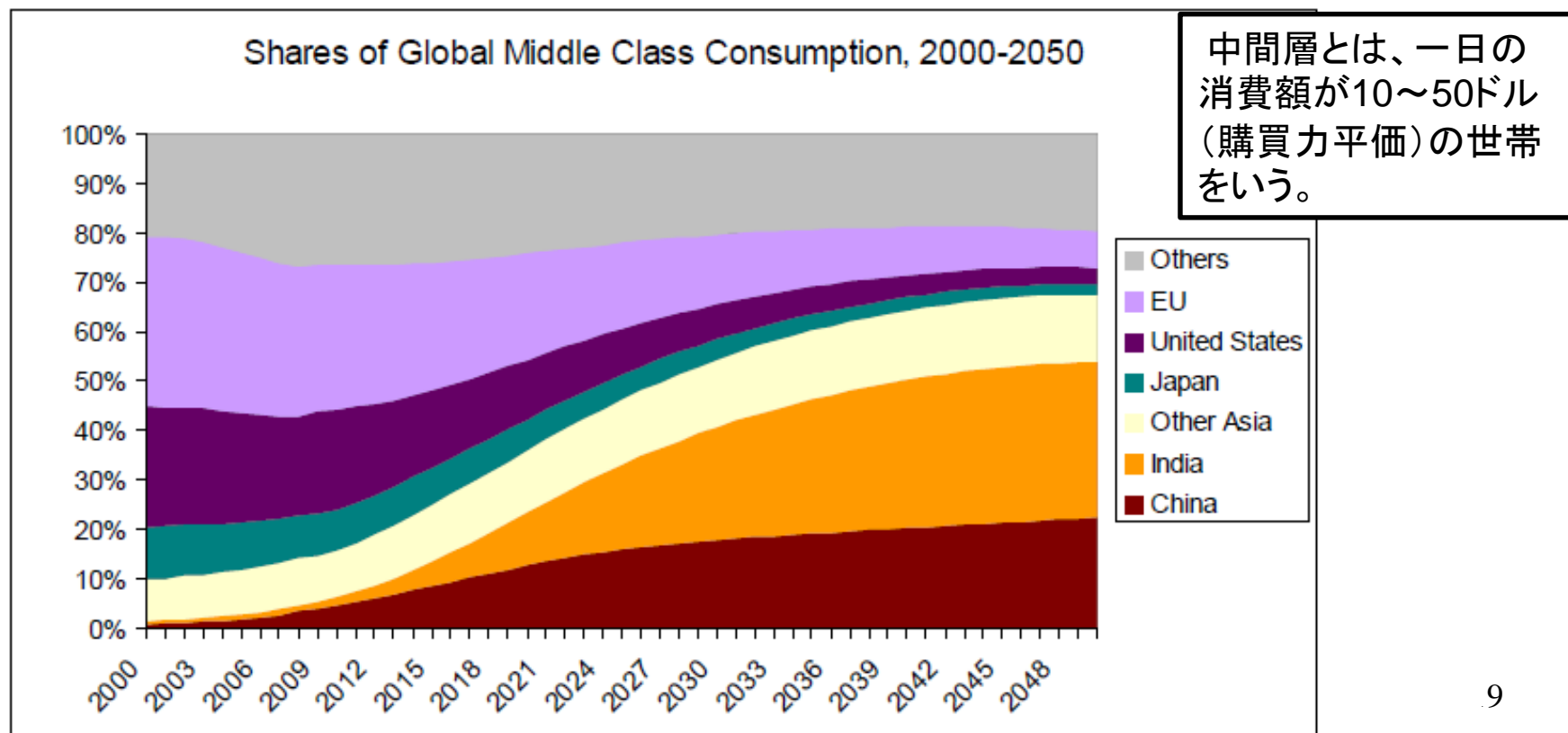
# なぜアジアの若者と「未来を共有」すべきか？

- ダイナミックに発展するアジア

OECD Development Centre Working Paper No.285

DEV/DOC(2010)2

アジア(日本を除く)の中間層消費は2000年の10%から2030年には50%に



# なぜアジアの若者と「未来を共有」すべきか？

- 共に発展できる日本

日本人・日本企業に対する高い信頼

共通の課題がある(安定的な国際関係、自然災害、病気など)

技術・経験など互いに補完できる関係

「日本語が世界を平和にするこれだけの理由」金谷武洋、飛鳥新社

- 「未来の共有」の重要性

オープンイノベーションの時代 ⇒ オープンマインドが重要

「未来の共有」が、新たなパートナー・新たな未来を生む

「未来の共有」に障害となる意識

身内の論理で考える ⇒ 既存の関係・ルールに囚われない

自主的に行動しない ⇒ 理念を持つ、受身でなく主体的に

正解・完璧を求める ⇒ やってみて考える、小さく変化する

# チャレンジができる時代

- 正しい答えがない時代
  - 従来 of 知識・経験が通用しない時代
  - 資金・技術が必ずしも必要ない時代
- ⇒ 若者・ベンチャー企業が活躍できる時代

# アジア研修「イノベーション」への挑戦

- アジア自主研修を応援する事業

研修プログラムの企画・実行を安価で支援

- ・希望の訪問先をアレンジ
- ・現地大学生が日本語ガイド

- アジア短期留学を推進する事業

ホーチミンの私立大学に日本語教育センター設置

- ・日本人学生が1~3ヶ月間滞在できる
- ・日本語での講義 異文化・イノベーションを学ぶ
- 現地日系企業・工場でのインターン
- 現地の社会問題見学
- ・アジアの日本留学経験者に集中講義を提供

ご関心がある方はご連絡ください [kj.tanabe@gmail.com](mailto:kj.tanabe@gmail.com)